

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

たくましく自立・しっかり自律し、学び続ける力を培い、他者理解と協同の心をもって社会に参加・貢献できる人を育む学校

1. 生徒の自立と自律を支援する：様々な背景を理解して寄り添う生徒指導により、基本的生活習慣と高い規範意識を醸成する。
2. 「確かな学力」を育む：「基礎学力の充実」と「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善に取り組む。
3. 中途退学の防止：中学校や外部人材・機関との連携を深めて教育相談体制を充実させるとともに、キャリア教育を推進する。
4. 自他を大切にすることを育む：教職員・生徒相互のコミュニケーションを通して、自己肯定感を高めるとともに、違いを認め他者を尊重する気持ちを育む。
5. 「明るく開かれた学校」：家庭・地域との連携を深め、教育力の強化、地域社会への貢献、安全安心な環境づくりに取り組む。

2 中期的目標

1 変化する社会に対応し学び続ける力を生徒に育むよう、教職員が研修を重ね、「主体的・対話的で深い学び」のある授業改善を推進する。

- (1) 安心して学べる環境づくりと、学びに向かう力を涵養するため、対話を手掛かりとした思考活動、体験活動、ICT機器の積極活用などを推進する。
 - ア 教員間での相互授業見学、公開授業と研究協議を通して、教員の授業力向上と生徒が主体的に学び合う授業改善に取り組む。
 - イ 少人数展開授業、チームティーチング、個別の支援等を通して、きめ細かい指導を充実させ、基礎学力の定着と学ぶ意欲の向上を図る。
※生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」(H30:75.1% R1:77.4% R2:77.2%)を、令和3年度には80%以上をめざす。

2 全ての教育活動を通して規範意識と人権尊重の心を醸成し、安全・安心な学校づくりを推進する。

- (1) 基本的生活習慣を確立し、学校生活を大切にすることを育む。
 - ア 日常のきめ細かい指導・対話と家庭連絡を通して基本的生活習慣を確立し、欠席・遅刻を防止する。
※生活習慣の改善と中退防止の観点から、欠席・遅刻率を毎年、前年度以下とする。
 - イ 生徒指導上の課題に対しては、指導方法における教職員の共通認識を深め、チームワークを活かして対応する。
- (2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい指導と支援を通して、不登校や中途退学を防止する。
 - ア 高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携をさらに深めて、生徒が抱える課題を教職員が共有し、教育相談体制を充実させるとともに、不登校や中途退学の防止に注力する。
 - イ 障がいのある生徒、外国にルーツのある生徒など、様々な背景を理解し、必要に応じて「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる。
※生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度(H30:73.8% R1:76.4% R2:77%)を、令和3年度には78%以上をめざす。
※中退率・生徒指導事案率を毎年、前年度以下とする。
- (3) 自己肯定感と人権を尊重する態度を育み、人間関係づくりを推進する。
 - ア HRや総合的な学習・探求の時間、学年行事等で、自他を大切にすることを計画的に実施する。
 - イ 学校いじめ防止基本方針に基づき人権教育を計画的に進め、生徒が自他の権利を尊重し、社会の一員としての自覚を深められるよう取り組む。
※生徒向け学校教育自己診断「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」(H30:67.3% R1:72.5% R2:67.4%)を、令和3年度には75%以上をめざす。
- (4) 教職員の働き方改革を進め健康管理に努めるとともに、ハラスメントの防止、危機管理体制の充実に努め、安全・安心な教育環境づくりを進める。
 - ア 教職員間の情報共有と協力、業務の効率化、学年・分掌間連携等を進め、長時間勤務の縮減をめざす。
 - イ 生徒への体罰・ハラスメント、職場におけるハラスメントの防止に向けた校内研修の実施、相談体制の整備に努め、人権が尊重された安全・安心な環境づくりを進める。

3 生徒が将来の展望を描き、自己実現に向けた取組みに打ち込むことができる支援・指導体制を充実させる。

- (1) すべての教育活動を通して、勤労観・職業観・自己肯定感を養い、早期に進路目標と展望をもたせる指導を行う。
 - ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等、すべての教育活動を「常に変化する社会の中で自立することができる人を育てる」という観点から組み立てる。
※卒業後に自己実現のための準備に備える者以外の進路未決定率3%以下を今後も維持する(H30:3% R1:1% R2:0%)。
また、学校紹介就職希望者の割合66%以上を今後も維持する(68% H30:66% R1:66% R2:67%)。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和4年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
<p>昨年度より、生徒では30項目中20項目、保護者では30項目中11項目、教職員では10項目中9項目、肯定的な回答が上回った。生徒では上回った20項目中11項目が10ポイント以上高くなっている。その中でも「体育祭・文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」が昨年度・一昨年度は肯定的な回答が約65%であったが、今年度は20ポイント以上高い85.5%であった。最後の勝山生であるが、1年生の終わりから新型コロナウイルス感染症の影響で学校生活にも多くの制限がかかり、度重なる延期の末、修学旅行は中止となった。そのような状況の中、勝山高校最後の文化祭・体育祭はこれまで以上に思い出に残る行事という思いで教員が生徒と一緒に考え、勝山と大阪わかば合同で楽しめる行事として新たな形態で行うことができたことによると思われる。保護者については、昨年度より肯定的な回答が下回った項目が6項目あったが、「勝山高校に入学させてよかった」の肯定的な回答が、90.9%と昨年度より12.9ポイント高くなっている。本校教職員の継続的な教育活動に対する保護者の理解がさらに深まったと思われる。</p>	<p>【第1回7月26日】 ○1人1台端末について、自ら学ぶためにはどのような活用ができるのかが課題。○コロナ禍でも文化祭・体育祭はできる限り工夫しながら実施したい。○コロナ禍の影響で中学校ではリーダーが育ってないと思う。今後その影響が高校に出てくるのではないかな。○学校と地域が連携してよい環境で生徒に学んでほしい。○同窓会の方々の声も聞き、最後の勝山生を大事にフォローししっかり見守ってほしい。○勝山高校は子どもたちに対する思いが伝わるような目標や説明があったと感じた。○学校教育自己診断ではアンケートを取る前にアンケート内容を生徒に示すことで生徒たちも期待に応えてくれるのではないかな。○貴校は(人生の)リーグ戦に戦っているような生徒を育ててきた。</p> <p>【第2回12月21日】 ○学校の数値活動が功を奏している。○勝山高校が開校するのは大変残念であるが地域連携等、大阪わかば高校に引き継がれていくことも期待したい。○地域もコロナ禍で様々な行事がなくなっている。地域としても生徒が安全に学べるよう協力したい。○勝山高校のサポート体制がしっかりされている。</p> <p>【第3回3月7日】 ○学校のICTを活用した学習の取り組みについて、非常に感銘を受けた。今後も学校教育の推進のため、これら取り組みを進めてほしい。○学校教育自己診断アンケートについて、良い評価が多かったと感じている。難しいミッションも多いと思うが、生徒のため</p>

府立勝山高等学校

	<p>に教職員が一丸となって頑張っている結果ととらえて良いだろう。先輩教員が若手教員の相談にも丁寧に対応しており、また、若手教員のアイデアを取り入れるなど、OJT が機能している。教員も学び続けることが大切。学校の経営計画を、生徒へも周知してほしい。○勝山高校の卒業式・閉校式に出席したが大変すばらしい式であった。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R 2年度値]	自己評価
<p>1 変化する社会に対応し学び続ける力を生徒に育むよう、教職員が研修を重ね「主体的・対話的で深い学び」のある</p>	<p>(1) 安心して学べる環境づくりと、学びに向かう力を涵養するため、対話を手掛かりとした思考活動、体験活動、ICT機器の積極活用などを推進する。</p> <p>ア 教員間での相互授業見学、公開授業と研究協議を通して、教員の授業力向上と生徒同士が主体的に学び合う授業改善に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・授業規律を堅持し、安心して学びに向かうことができる授業環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合わせ、習得・探求・活用の学習過程を重視した授業づくりを推し進める。 ICT機器を積極的に活用し、分かりやすい授業づくりを推進する。 学習支援クラウドサービスを活用した学習活動を推進する。 すべての授業を公開し、相互に学び合い、生徒の学びの状況を見取ることができる力をつける。 学期ごとに授業見学週間を設定し、授業見学シートをお互いに交換する。 他校の公開授業や外部での授業研究会等の研修への参加を奨励する。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断「授業では積極的に学ぼうと思うような環境が保たれている」を前年度以上。[63.2%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断「教え方に工夫をしている」を前年度以上。[72.2%] 生徒授業アンケートで「授業内容に興味・関心を持てる」77%を維持する。[77.2%] 生徒向け学校教育自己診断「授業で視聴覚機器やコンピュータなどを活用している」を前年度以上。[84.4%] 生徒向け学校教育自己診断「他の先生が授業を見学に来ることがある」80%以上を維持。[81.4%] 各学期に授業見学シートを3枚以上作成する。 	<p>ア・新型コロナウイルス感染症対策が定着したこともあり、昨年度より 11.1 ポイント上回り、73.4%であった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習支援クラウドサービスの活用も進み、肯定的な回答は84%であった。(◎) 78.2%と維持できた。(○) 82.9%と 1.5 ポイント下がったが、誤差の範囲内と考える。(○) 83.8%であった。教員間の授業見学が授業見学週間以外にも行われている。(○) 各学期ごとに授業見学週間を設定。平均して一人3枚以上作成した。(○)
<p>2 全ての生徒が安心して学習に取り組むことができるよう、安全・安心な学校生活の実現を目指す</p>	<p>(1) 基本的な生活習慣を確立し、学校生活を大切にす態度を育む。</p> <p>ア 基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>(2) 課題の背景をつかみ取り、生徒に寄り添ったきめ細かい指導と支援を通して、不登校や中途退学を防止する。</p> <p>ア 中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携を深め、課題を共有し、教育相談体制を充実させる。</p> <p>イ 障がいのある生徒、外国にルーツのある生徒など、様々な背景を理解し、支援する。</p> <p>(3) 自己肯定感と人権を尊重する態度を育み、人間関係づくりを推進する。</p> <p>(4) 教職員の働き方改革を進め健康管理に努めるとともに、ハラスメントの防止、危機管理体制の充実に努める。</p> <p>ア 業務の効率化、分掌間連携等を進め、長時間勤務の縮減をめざす。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・生徒の実態把握に努め、遅刻・欠席の原因や背景を探り、対話による丁寧な指導、家庭との連携、必要な支援を通じて、相互信頼を深め、遅刻・欠席を防止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒自治会や教員による朝のあいさつ運動など、生徒同士や教員とコミュニケーションがとりやすい環境をつくる。 ネットリテラシーを高めるため、LHR 等で学ぶ機会や講演会を企画する。 <p>(2)</p> <p>ア・高校生活支援カードを活用するとともに、中学校・家庭・専門人材・福祉等の関係機関との連携をさらに深めて、課題を教職員が共有し、教育相談体制を充実させ、不登校や中途退学を防止する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年団で情報共有と意思統一を図り、協力して生徒支援に臨めるよう、学年会を月に2回以上開催する。 <p>イ・様々な背景を理解し、必要に応じ「個別的教育支援計画」、「個別の指導計画」を組織的に作成して支援にあたる</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がいや配慮を要する生徒の支援に対する教職員の理解を深める資質向上に取り組む。 <p>(3)</p> <p>イ・学校いじめ防止基本方針に基づいた校内体制を全教職員で堅持するとともに、人権教育を計画的に進め、生徒が自他の権利を尊重し、社会の一員としての自覚を深められるよう取り組む。</p> <p>(4)</p> <p>ア・各種ソフトウェアやクラウドサービスを有効活用し、業務の効率化をはかる。</p> <p>イ・生徒への体罰・ハラスメント、職場におけるハラスメントの防止に向けた校内研修の実施、相談体制の整備に努め、人権が尊重された安全・安心な環境づくりを進める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・遅刻者数を昨年度の20%減をめざす。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒向け学校教育自己診断の生徒指導充実度70%以上をめざす。[69.5%] 生徒向け学校教育自己診断の入学満足度70%以上をめざす。[69.7%] SNSに関するトラブルの減少。 <p>(2)</p> <p>ア・生徒・保護者向け学校教育自己診断の教育相談満足度75%以上を維持する。[77%]</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年会議を月2回以上開催し生徒支援のための情報共有を緊密にする。 中退者なく全員卒業をめざす。 <p>イ・外部人材と連携した生徒支援に係るケース会議等を毎月開催する。</p> <p>(3)</p> <p>イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルール、人権について学ぶ機会がある」75%をめざす。[67.4%]</p> <p>(4)</p> <p>ア・教職員の時間外労働時間を前年度以下とする。</p> <p>イ・教職員向け学校教育自己診断「体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止、人権尊重の姿勢にもとづいた生活指導が行われている」、「教育活動における問題意識や悩みを気軽に相談し合える職場の人間関係ができています」75%を維持する。[76.1%]</p>	<p>ア・生徒の意識も高まり家庭との連携により遅刻者数は18.3%減でほぼ達成した。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒指導充実度は、76.4%であった。(○) 朝のあいさつ運動の継続で、1日の始まりの雰囲気よくなり、生徒同士や教員とのコミュニケーションがとりやすくなった。 入学満足度は76.3%であった。(○) SNSに関するトラブルは、昨年度15件から今年度は5件と約30%減少した。(○) 71.2%となり75%以上を維持できなかった。生徒の満足度が昨年度より下回ったことによる。(△) 学年会議は月2回以上実施し、最後の勝山生の学校生活や卒業に向けて生徒の情報を共有した。(○) イ・毎月開催しSC、SSW、CCと連携し、迅速に生徒支援に対応できた。(○) イ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」80.3%、「人権について学ぶ機会がある」85.2%でどちらも昨年度より約13ポイント上回っている。(◎) ア・昨年度比98.6%に減少した。(○) イ・どちらも89.7%という結果であり、人権尊重の姿勢にもとづいた生活指導を心掛け、教員集団の人間関係の構築が進んでいる。(◎)

府立勝山高等学校

<p>3 生徒が自己実現に打ち込むことができる 3 導体制を充実させる。 支援・指</p>	<p>(1) すべての教育活動を通して、勤労観・職業観・自己肯定感を養い、早期に進路目標と展望をもたせる指導を行う。</p> <p>ア 授業、学校行事・HR活動・生徒会活動・部活動等、すべての教育活動を「常に変化する社会の中で自立することができる人を育てる」という観点から組み立てる。</p>	<p>(1)</p> <p>ア・キャリア教育に関して、外部講師を招いてのガイダンスや出前授業等を企画する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ、企業見学、オープンキャンパス等への参加、講習や資格試験の受験など奨励・推進する。 ・閉校年度の学校行事（文化祭・体育祭等）において準備段階から生徒たちの活躍の場を設け、自己肯定感・達成感を養う。 	<p>(1)</p> <p>ア・生徒向け学校教育自己診断の進路学習及び進路情報に対する満足度 75%以上をめざす。[73.6%]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卒業後に自己実現のための準備に備えるもの以外の進路未決定率を維持する。[0%] ・職業観育成プログラムへの参加者数。 ・生徒向け学校教育自己診断の学校行事の満足度90%をめざす。 	<p>ア・進路学習及び進路情報に対する満足度は87.9%と昨年度より14.3ポイント上回った。</p> <p>(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月末の進路未決定率は0%であった。 <p>(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業見学総数は約延べ100人。(○) ・文化祭・体育祭は生徒たちと教員で工夫を凝らし新たな試みにも取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響で今年度に延期していた修学旅行も再度延期のうえ中止、その代替の校外学習も中止となったことを考えると、85.5%であったが目標は達成したと考える。(○)
---	--	--	---	---